

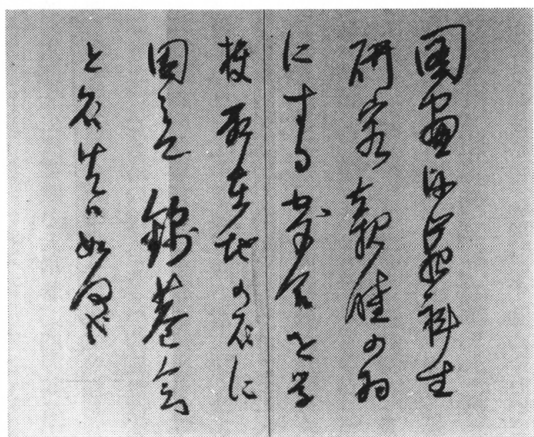
購買力があつて、當時三食附一ヶ月金八圓也で下宿して居るものさへあり、最高十五圓も出せば夕食には刺身に洋食の一品位はつけると云ふ低物價時代であつたから少々有り難かつたが此手當も我々卒業後間もなく經費節減のあほりで廢止せられたと云ふ事であつた。

ほかに、白浜徹および白浜在職中の図画師範科については『白浜徹先生追悼号』（昭和四十九年。錦巷会^{東京芸術大学美術教育学研究室}）があり、参考になる。

図画師範科は明治四十三年に第一回卒業生を全国の中等学校へ送り出した。同年正木直彦、白浜徹、上原六四郎、小山正太郎、阿部七五三吉らによる『尋常小学新定画帖』が発行され、図画師範科の順調な運営と相まって、明治三十五年以来の図画教育改革は完結をみた。また、白浜徹は同年『図画教授之理論及実際』『新式練習画帖』を出版し、一方図画師範科の同窓会である錦巷会が結成されてその会長となった。これらについては前出「続・日本近代美術教育史」（金子一夫著。『美育文化』所載）中に詳しい論及がある。

③ 錦巷会

前項中に掲載した「図画師範科創立当時の回顧」に記されているように、錦巷会は明治四十年十一月に発足した図画師範科の親睦団体で、会名は正木直彦の命名による。同会の機関誌『錦巷』は明治四十四年三月創刊され、これに会則が掲載されており、第三条に「本会ハ東京美術学校図画師範科職員卒業生並ニ在校生徒ヲ以テ組



正木直彦の「錦巷会」命名書
（『錦巷』第1号より転載）

織ス」と記されている。会長には同科主任を推すと定められている。機関誌については毎月編纂して春秋二回特別号を刊行するといふ規定があるが、これは明治四十四年四月に至り、春秋二回発行と改められている。『錦巷』の雑報欄によって、錦巷会では図画師範科関係教官や卒業生の講話、絵葉書競技、余興などが行われ、卒業式の時期になると、全国各地の学校へ赴任する生徒のために盛大な送別会を催したことがわかる。

④ 東京美術学校規則（総則）改正

図画師範科設置にともない明治四十年七月に東京美術学校規則の第一章「総則」が次のように改正された。